科目名	診療画像技術学臨床実習	分野・必選別・単位数	専門実習科目	選択	2単位

担当教員	◎教授　岡本孝英　　准教授　菱木　清　　准教授　大松将彦　　講師　林　達也					授業方法	実験・実習
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	配当コース	診療放射線コース 医学物理士コース

授業の概要	医療施設等において実践能力を重視して単純撮影、造影撮影、CT・MR撮影、血管撮影、特殊撮影等の放射線技術、および医用画像処理技術の修得を図る。また、先端医療施設等における前段階の実習も行う。
授業の到達目標	臨床実習により経験した、それぞれの放射線技術に関して医療的な側面および学問的な側面より概説できる。

授業計画

回数	担当者	行動目標

【行動目標】
学部卒業後、臨床に就くこと無く、博士前期課程に進むことにより、学部での学内実習、病院臨床実習で培った技術、知識が時間とともに不毛となってしまう危険性が危惧される。そこで臨床の場において各種撮影法等の診療画像技術学の実地研鑽を行い、その知識を有することを目標とする。

診療放射線技師免許を有しているとはいえ、患者に対する医療行為を初めて行うことは並大抵のことではない。
そこで経験豊富な先輩の診療放射線技師の教育、指導の下で実際に患者に対する医療行為を経験し、その知識を有することを目標とする。

各週ごとに経験した臨床実習に関して「臨床実習報告書（書式に基づいた簡単な備忘録）」を作成し、他の授業科目である「放射線科学特論」において原則、毎週、週の終わりにその週で生じた技術的な問題点などを報告し、必要な指導、助言を受けることにより、効率的な実践技術を修得する。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	次回の実習内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	実習中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回実習までに解決しておくこと。
	【必要時間】	該当期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	
参考書	
評価方法	臨床実習への取り組み姿勢80%、報告書20%
その他履修上の注意事項	実習場所：帝京大学医学部附属病院など 試験やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。